

## 令和7年度 第1回歯科口腔保健審議会 議事概要

◎ 日時

令和7年5月15日（木） 13時00分～14時15分

◎ 場所

議会棟2階 第6委員会室

◎ 出席者

《委員》巻会長、清水委員、坂田委員、武石委員、野田委員、大久保委員、  
安井委員、滑川委員、田島委員、大谷委員、山口委員、斎藤委員

《事務局》斎藤保健部長 他

《傍聴人》なし

◎ 欠席者

金子委員、岩崎委員、桑島委員

◎ 会議資料

《事前配布》

- ・ 次第
- ・ 歯科口腔保健審議会委員名簿
- ・ 歯科口腔保健審議会関係課名簿
- ・ **資料1** 第2次さいたま市歯科口腔保健推進計画進行管理概要
- ・ **資料2** 第2次さいたま市歯科口腔保健推進計画 数値目標の推移
- ・ **資料3** さいたま市健康づくり計画 歯・口の健康 令和7年度取組予定
- ・ **資料4** 働き盛り世代の歯と口の健康づくり事業について（案）
- ・ **資料5** 令和6年度口腔ケア研修会実施報告書
- ・ **資料6** さいたま市障害者歯科相談医等連携・紹介事業について

1 開会

- ・ 議事録は、会長一任により承認いただき、公開することによろしいか。

《委員》異議なし

## 2 議事

### (1) さいたま市健康づくり計画（第2次さいたま市歯科口腔保健推進計画）の進行管理

事務局及び関係課が資料に基づき、令和6年度の取組の成果と令和7年度の取組予定について説明。

- ・資料1 第2次さいたま市歯科口腔保健推進計画進行管理概要
- ・資料2 第2次さいたま市歯科口腔保健推進計画 数値目標の推移
- ・資料3 さいたま市健康づくり計画 歯・口の健康 令和7年度取組予定

#### <御意見・質疑>

巻会長：事務局から、令和6年度の取組の成果と令和7年度の取組予定について説明があったが、関係団体に所属する委員からも説明をお願いしたい。

浦和歯科医師会の清水委員いかがか。

清水委員：浦和歯科医師会では、埼玉県立がんセンターと連携して、「口腔がん検診」を年に2回実施している。

ポスター、チラシ、市報による周知を行っているが、参加者の約95%が市報を見ての参加であった。

定員50～60人に対し、約150人の応募があり、市民の口腔がん検診に対する関心の高さを感じており、継続事業としている。

巻会長：続いて、大宮歯科医師会の坂田委員いかがか。

坂田委員：大宮歯科医師会では、6月8日に、「市民の健口フェスティバル」を実施予定であり、フェスティバル同日に「よい子の歯のポスターコンクール」と「8020よい歯のコンクール」も開催する。

幅広い年齢層の市民が会場に集まり、歯科保健に関する啓蒙活動を広く行うことができる。

その他、大宮医師会を中心に実施している「包括医療及びケア実践のための多職種連携協議」に参加している。

それぞれの職種が課題を持っており、口から食べることを多職種の共通の目標とすることに難しさを感じており、審議会委員からアドバイスをいただきたい。

巻会長：与野歯科医師会の金子委員は、本日欠席のため、資料3において取組を確認いただきたい。

続いて、さいたま市薬剤師会野田委員いかがか。

野田委員：薬剤師会では、医歯薬連携の推進に向けた研修会を行っている。

歯科医師の講義を聴き、薬局には、歯科受診に繋げるべき患者が多く来院していることがわかり、薬局から歯科受診に繋ぐためのツールを現在作成して

いる。今後は、モデル地区で実践し、効果を検証していく。

また、法改正により、薬局は薬を処方するだけでなく、自身の健康をチェックするために訪れる場としての機能も有するようになった。

しかし、その解釈はまだ浸透していないため、地域で開催されている高齢者サロン等に薬剤師が出向いて健康チェックや相談に応じている。

今年度は、関係団体及び行政との顔の見える関係を築き、薬剤師の派遣依頼に対し柔軟に応じていきたい。

巻会長：野田委員は、薬剤師という立場で、歯科との連携に取り組んでいただいております、感謝しています。

続いて、埼玉県歯科衛生士会の久保委員いかがか。

久保委員：定期的に、幼稚園、小学校、中学校の歯科保健指導を実施している。

中学生には、自分で自分の歯を守ることを主題とした指導を行っている。また、障害者に対する指導を定期的に行っているが、同じ指導を繰り返すのではなく、生活の質の向上に向けた指導、相談を実施している。

その他、歯科医師会と連携した「健康まつりの参加」や、さいたま市の高齢者に関する事業の従事や、高齢者施設に対する口腔ケアも実施している。

巻会長：歯科医師会が事業を実施するに当たり、歯科衛生士会の協力は必要不可欠であり、今後も協力をお願いしたい。

続いて、さいたま市社会福祉事業団の田島委員いかがか。

田島委員：児童センターにおいて、乳幼児期の保護者に対して、歯科衛生士による歯科指導と相談を行っている。

また、障害児者の事業所において、歯科医師と歯科衛生士による歯科健診、ブラッシング指導、フッ化物塗布を実施している。

障害児の事業所においては、歯ブラシを口にに入れることや歯科健診の経験を重ね、口腔ケアに慣れていくことを狙いとしている。

障害者の事業所に対しては、口腔ケアを十分に行ってこなかったために自分の歯が非常に少ない方もいる。そのような場合でも、入れ歯を入れることが難しいケースもあり、残存歯の維持が課題であり、食形態の工夫も行っている。

安全に食事ができる状態を維持するための口腔ケアを歯科医師、歯科衛生士の力を借りて、今後も継続していく。本事業を継続していくことで、かかりつけ歯科医を有し、お口の健康が保たれるようになってきている。

その他、老人福祉センターでの歯科衛生士と栄養士の講話や、日進職業センターでの「むし歯周病予防教室」を実施予定である。

日進職業センターは就労継続支援事業及び就労移行支援事業を実施している事業所であり、自分で口腔ケアを行うことが可能だが、歯周病を患っている方が多数いるため、口腔ケアに対する意識を高めることを目的としている。

巻 会 長：社会福祉事業団における歯科保健の取組は、非常に重要であると認識している。

同じレベルの事業を継続して実施していくことは、努力を要することであるが、引き続きの実施をお願いしたい。

最後にさいたま市歯科医師会の取組を紹介させていただく。

「歯、口腔に関する図画ポスターコンクール」は、浦和、与野、大宮歯科医師会から選出されたポスターを健康教育課と連携し、展示、表彰するもの。

「口腔機能向上フォローアップ教室」は、介護予防事業として実施していた、口腔機能向上教室の継続実施が必要と考えたことから約10年前に立ち上げた事業であり、各区で20～30人の参加がある。

また、いきいき長寿推進課が実施している「健口づくり交流会」にも協力している。コロナ禍前は、座談会方式であったが、コロナ禍以降は、講演会方式の開催となっているが、今年度の予定はどのようなものか。

いきいき長寿推進課：令和6年度は、座談会方式で開催をした。今年度も同様の開催を予定している。

巻 会 長：市民の評価は、座談会方式による開催の方が高いと記憶しているが。

いきいき長寿推進課：昨年度のアンケートでも、9割以上の方が満足との回答をいただいている。

巻 会 長：歯科医師会として、今後も協力していきたい。

事務局及び関係団体に所属する委員の説明は以上となるが、御質問、御意見を伺いたい。

安井委員いかがか。

安井委員：マンパワーの問題がある中で、さいたま市は、他市町村と比較しても、対人保健サービスが非常に優れており、高く評価できる。

一方、今後の人口構成の変化に合わせて全体に力を入れているところから、視点を変えていくことも必要である。

巻 会 長：近い将来の歯科保健の在り方として貴重な意見である。

武石委員いかがか。

武石委員：「包括医療及びケア実践のための多職種連携協議」に参加している、坂田委員から多職種連携の難しさについて御発言があった件について、大宮医師会として検討させていただく。

また、就労支援事業所に対する社会福祉事業団の事業についてであるが、今後、障害者雇用が進んでいくことから、取組を継続していただきたい。

巻 会 長：滑川委員、御意見いかがか。

滑川委員：安井先生の発言でもあったとおり、今後人口構成が変わっていくため、高齢者に対する取組みにシフトしていくことは、自然な流れである。また、関係課の取組として、口腔保健センターが開設予定等、要介護者や障害者に手厚いサポートを行う流れとなっており、評価できる。

また、委員の様々な積極的な取組を把握し、大変心強く感じている。

巻 会 長：大谷委員、他に御意見いかがか。

大谷委員：さいたま市社会福祉協議会では、主に高齢者を対象とし、地域包括支援センターとケアマネジャーのいる事業所で事業を実施している。

口から食べることを維持するため、寝たきり状態の方には、積極的に訪問歯科診療を進め、嚥下についても診ていただいております、長生きされる方が増えていると、ケアマネジャーから聞いている。

先程、野田委員から薬剤師会の取組の説明があったが、薬局スタンプラリーという、元気な高齢者が積極的に薬局を訪れる工夫や、ふれあい会食の場で、薬剤師の方が参加者の質問に応じているところを拝見した。

包括支援センターでは、集客に苦慮している現状はあるが、多くの方に歯科も含め、様々な周知を行っていききたい。

巻 会 長：その他、山口委員いかがか。

山口委員：埼玉県歯科衛生士会に所属している歯科衛生士であり、多くの歯科保健事業に従事している。

坂田委員から多職種連携のお話があったが、歯科衛生士会として、管理栄養士と一緒にしている事業もあり、歯科と栄養の密接な繋がりを再認識しているところでもある。

今後も連携を深め、自身の知識を向上していきたいと感じている。

巻 会 長：斎藤委員、いかがか。

斎藤委員：管理栄養士の資格を有していることから、今後、この審議会に管理栄養士の関りが深まると良いと考える。

良い情報に多く触れることで、健康意識も高まるため、市民アプリを活用する等、啓発を継続していただきたい。

また、経済的に問題がある場合には、歯科受診に消極的になるケースもあると感じている。

巻 会 長：栄養と歯科は密接な関係があり、今後も連携していただきたい。

経済困窮者は歯科受診を控えるという問題も、今後は考えていかななくてはいけない。

その他、いかがか。

坂田委員：さいたま市社会福祉事業団の新規事業である、「むし歯歯周病予防教室」について、実施場所の日進職業センターでは、以前、利用者がかかりつけ医を持つことを目的に大宮歯科医師会が歯科保健事業を立ち上げた。

その事業では、利用者8人に対して、歯科医師と歯科衛生士を各1人ずつ配置し、歯科健診と歯科健診後にミーティングを実施し、現状の把握とリスク管理を行った。

新規事業では、保健センターの歯科衛生士が従事するため、かかりつけ医を持っていただくという大きな目標がぶれないよう、頑張っていたきたいと思う。

田島委員：事業を行うことで、利用者の生活が向上するため、感謝している。

坂田委員からお話があった、保健事業の立ち上げ時は、利用者も保護者も若かったため、保護者が利用者を歯科医療機関に受診させる体力があったが、時が経ち、保護者が高齢となり、今後は、年齢層が上がった利用者の施設外での口腔ケアが課題である。

巻会長：先程、安井委員の御発言にあった、人口構造の変化は、今後に歯科保健事業を進めていく上で、大きな問題となってくるため、今後検討が必要と考える。

### 3 報告

#### (1) 働き盛り世代の歯と口の健康づくり事業について

事務局より資料に沿って報告

《資料》

- ・資料4 働き盛り世代の歯と口の健康づくり事業について（案）

#### (2) 令和6年度口腔ケア研修会について

事務局より資料に沿って報告

《資料》

- ・資料5 令和6年度口腔ケア研修会実施報告書

#### (3) さいたま市障害者歯科相談医等連携・紹介事業について

事務局より資料に沿って報告

《資料》

- ・資料6 さいたま市障害者歯科相談医等連携・紹介事業について

巻会長：ただいま、事務局から3点報告があったが、質問はいかがか。

安井委員：働き盛り世代の歯と口の健康づくり事業について報告があったが、武石委員から御紹介いただき、今年度、産業保健総合支援センターの産業保健スタッフ向けに、健康づくりに関する講話を行う機会をいただいた。

さいたま市の取組を御紹介させていただく予定である。

武石委員：安井委員には、全国労働衛生週間説明会において、大宮地区と浦和地区の労働基準協会向けにお話をいただく。

その際には、さいたま市の条例やさいたま市が作成した事業所向け啓発資料も御紹介をいただく予定である。

また、報告事項のあった、全国健康保険協会の埼玉支部に対する働き盛り世代の歯と口の健康づくり事業についてであるが、対象となる事業所が多いため、効果を期待するとともに、実施するに当たり、SNSを活用していただきたい。

巻 会 長：審議会を通じて、連携した歯科保健の取組が行われていることをうれしく感じている

今後もこのような機会を活かし、歯科保健に取り組んでいただきたい。

4 部長挨拶

5 閉会